



『色とりどりの花を咲かせよう』

校長 二瓶 庄吾

梅雨に入り、紫陽花(アジサイ)が美しい季節となりました。中川小学校の西門側にも色とりどりの紫陽花が咲き、学校を彩っています。

紫陽花は、ピンクや紫、赤、青、白などさまざまな色の違いを楽しむことができます。咲いている途中で花の色が変わったり、昨年と同じ株なのに今年は花の色が違ったりすることもあり、「色の変化」も紫陽花の魅力のひとつになっています。

一体どうして花の色が変わるのか、その「色の変化」の秘密は、紫陽花が植えられている土壌の酸性度によるそうです。土にはさまざまな成分が含まれており、その成分の量によって土の酸性度は絶えず変化していて、酸性になったりアルカリ性になったりします。色の変化は、紫陽花のもつアントシアンという色の素に、水といっしょに吸い上げられたアルミニウムが結合するかどうかで花の色が変わります。酸性の土にはアルミニウムが多く含まれているので青色に、アルカリ性の土にはアルミニウムが少ないのでピンク色になっているということです。

こうした土の成分によって色が変わるということを知って色とりどりの紫陽花を目にすると、わたしたちの「色」も《土=環境》によって変化するのかとイメージがふくらみます。紫陽花が根を下ろす土の成分によって色が変わるように、わたしたちが基盤とする環境(友だち・グループ・学級・学校・家庭・地域・社会などなど)によってわたしたちの「色」が変化し、彩られると考えると、「環境」のもつ重要性や可能性について思いが広がります。

子どもたち一人ひとりがもっている「色」が、《土=環境》によってより輝いたり、新しい色を見つけたりするとともに、自分自身もそこに咲く花に彩りを与える《土=環境》であるという意識をあわせてもちながら、色とりどりの花を咲かせてほしいと思います。

そうした「花」の色を増やしたり、より豊かな「土」をつくったりするのによい機会となる校外学習が各学年で行われています。1年生の大塚・歳勝土遺跡公園遠足、3年生のこどもの国遠足、5年生の道志村宿泊体験学習、4年生の宮ヶ瀬ダム社会科見学が実施され、秋に2年生のズーラシア遠足が、そして7月に6年生の日光修学旅行が予定されています。学校を離れて、友だちや先生、自然や文化、施設等と豊かに関わりながら彩りを深めていきます。

一筆描きの日光東照宮「鳴き竜」
(※ぬり絵にもなります)

